

電話による人権相談窓口

みんなの人権 110 番 (さまざまな人権問題)

☎ 0570-003-110

女性の人権ホットライン(家庭内暴力など女性の人権問題)

☎ 0570-070-810

こどもの人権 110 番(いじめ・虐待など子どもの人権問題)

☎ 0120-007-110

法務省インターネット人権相談窓口

<https://www.jinken.go.jp/>

コロナ差別相談ダイヤル

☎ 073-441-2563

考えてみませんか、私の人権、あなたの人権。

人権だより

有田川町教育委員会 社会教育課

電話 22-4513

ファクス 32-4827

リーダー研修 紀伊半島大水害を振り返る

昨年11月、和歌山県土砂災害啓発センターの方と語り部の久保栄子さんをお招きし、一度は断念した研修を実現することができました。平成23年(2011年)9月4日未明からの紀伊半島大水害で被災した様子を手作りの紙芝居にし、分かりやすく、そして生々しく語ってくださいました。

那智川が氾濫したのは深夜2時頃。辺りは真つ暗で、気付いた時にはもう家の中まで水が入ってきていました。ドアも開けられず、窓から脱出して屋根の軒に、久保さんご夫婦と長女の3人でしばらくぶら下がっていたそうです。このままでは…と思い、そこから3mほど離れたフェンスのある駐在所へ移動しようとして決断し、まずは久保さんご本人が手を放しました。あつという間に濁流に飲み込まれてしまい、やっとの思いでしがみついたのは、家から100mも離れた歩道のフェンスでした。そして朝まで流木や車が流れてくるのに耐えていたそうです。そのお話をずっとドキドキしながら

らうかがい、本当によく耐え抜いたんだなと衝撃を受けました。

久保さんは那智勝浦町井関で被災し、その後72歳で防災士の資格を取り、現在は78歳だそうです。防災士として「寝室には懐中電灯と靴を常備する。早めの避難が何より重要で、ハザードマップの確認も忘れず行うこと」と話されました。

近年災害が多く、一人でも多く命が助かってほしいと思います。久保さんもそのような思いで、今も元気に遠くまで来てくれます。もつと多くの人に話を聞いていただく機会をもてたら良いなと思いました。

人権機関有田川理事 林千賀子

リーダー研修 ふれあい人権フェスタ

2021

会場の和歌山ビッグホールには62のブースがあり、案内図にはふりがながをつけて誰もが入りやすいように配慮されていました。

私が立ち寄ったのは「和歌山県ハンセン病協議会」「車いすと着物WAとWA(輪と和)」「和歌山県男女共同参画センターいぶる」「和歌山市子ども食堂連絡協議会」「一

社)和歌山県助産師会」など。情報を得るいい機会でした。舞台では「ダンス/いぶき一座」の発表の最中で、一人一人が実に生き生きと自信を持って表現する姿に感動しました。

社会心理学者の三浦麻子教授の講演もあり、テーマは「人間の心のしくみと偏見・差別」心理学者が見た「感染禍」でした。まとめて出された「ワクチン接種が功を奏するか、感染者がさらにまん延してしまおうと、感染者が偏見・差別に遭うケースは少なくなるだろう。しかし、それで問題が解決するわけではなく、ターゲットが別の弱者に移るだけであれば、構図は何も変わらない」というメッセージが強く心に残りました。ターゲットを生み出す背景とは？誰の心にも潜んでいる人間としての弱さ。別の弱者が自分の心の奥底を出せずにつらさに苦しむことがないよう「人々の考え方を動かしていくための必要な持続的な努力」とは何か、考えさせられました。

最後に三浦教授が「新型コロナ感染症の当事者の声をお寄せください」と呼びかけ、生の声から社会現象を読み解き、心のありようを研究していく姿に感動しました。

人権機関有田川 高垣かすみ